

## 令和4年度卓越研究員決定者一覧

通番	氏名	審査分野	機関名	部署名	ポスト分野	卓越研究員としての研究テーマ
1	古波藏 契	人文学	ランドブレイン株式会社	国土政策グループ	人文学	領域横断的なコミュニティ政策研究～沖縄を中心事例として～
2	鳥越 尊	化学	国立大学法人京都工芸繊維大学	分子化学系	化学	遷移金属触媒および機能性触媒の設計に基づくC(sp <sup>3</sup> )-H結合官能基化
3	安井 基博	化学	国立大学法人京都工芸繊維大学	分子化学系	化学	含窒素ヘテロ芳香族化合物を利用した付加環化反応の開発
4	龍 吟	農学・環境学	国立大学法人東京大学	大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻	農学・環境学	少子高齢化社会におけるライフスタイル変容によるカーボンフットプリント削減の道筋
5	女屋 崇	工学系科学	国立大学法人東京大学	新領域創成科学研究科 物質系専攻	工学系科学	原子層堆積法を用いた機能性ナノ薄膜設計及びナノ界面制御を組み合わせた技術体系構築
6	中野 晃佑	数物系科学	国立研究開発法人物質・材料研究機構	マテリアル基盤研究センター	数物系科学	第一原理量子モンテカルロ法に基づく次世代電子状態計算手法の開発と応用
7	荒井 俊人	工学系科学	国立研究開発法人物質・材料研究機構	高分子・バイオ材料研究センター	工学系科学	ソフトマター・エレクトロニクスの研究
8	東島 佳毅	医歯薬学	国立大学法人宮崎大学	テニユアトラック推進室	医歯薬学	遺伝子転写機構の根本理解から挑む血管炎症研究の新展開
9	高野 秀明	化学	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学	大学院工学研究科	化学	光学活性ホウ素化合物の効率合成法の開発と光学特性を活かした応用
10	後藤 真実	人文学	国立大学法人秋田大学	大学院国際資源学研究科	人文学	イラン系若年層移民女性の身体表象文化の再構築と戦略の民族誌－アラブ首長国連邦の事例から
11	Juho Leppänen	数物系科学	学校法人東海大学	総合科学技術研究所	数物系科学	双曲的な非自励力学系の統計的性質に関する研究
12	山崎 洋人	工学系科学	国立大学法人長岡技術科学大学	産学融合トップランナー養成センター	工学系科学	ナノ流体・光学融合技術による一分子計測デバイスの創出
13	Fan Zipei	情報学	LocationMind株式会社	Research and Development Division	情報学	1. 船舶軌道シミュレータの開発 2. リアルタイム軌道予測システム開発 3. 災害対応・災害時人流予測シミュレーション
14	長尾 遼	生物系科学	国立大学法人静岡大学	農学部	生物系科学	光合成生物の多様な光捕集機構に関する機能構造研究
15	趙 越	工学系科学	国立大学法人室蘭工業大学	もの創造系領域（電気電子工学ユニット）	工学系科学	超広帯域中赤外量子もつれ光源の開発と応用

※補助金の対象とならない卓越研究員を含む。

## 令和4年度卓越研究員事業における一覧化公開ポストを提示した研究機関

●国立大学（12機関）		募集人数
1	長岡技術科学大学	1
2	静岡大学	1
3	滋賀医科大学	1
4	東京大学	3
5	宮崎大学	1
6	京都工芸繊維大学	2
7	室蘭工業大学	2
8	秋田大学	4
9	金沢大学	1
10	北見工業大学	2
11	熊本大学	1
12	名古屋大学	1
計		20

●公立大学（0機関）		募集人数
1		
計		0

●私立大学（1機関）		募集人数
1	東海大学	2
計		2

●大学共同利用機関法人（2機関）		募集人数
1	高エネルギー加速器研究機構	1
2	自然科学研究機構	1
計		2

●国立研究開発法人（3機関）		募集人数
1	日本原子力研究開発機構	5
2	宇宙航空研究開発機構	1
3	物質・材料研究機構	1
計		7

●企業（6機関）		募集人数
1	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
2	ランドブレイン株式会社	1
3	LocationMind株式会社	3
4	株式会社オンチップ・バイオテクノロジーズ	1
5	ソニーグループ株式会社	2
6	アルキテック株式会社	1
計		9

●社団・財団法人（1機関）		募集人数
1	公益財団法人がん研究会	2
計		2

●全体（25機関）		募集人数
計		42



## 背景・課題

- 我が国の研究力強化の鍵は、競争力のある**若手研究者の活躍**であり、**若手研究者と産学官の研究機関とのマッチングを促進**し、科学技術イノベーションの推進と我が国の持続的発展につなげていくことが必要。
- 特に、**産学官の研究機関が優れた若手研究者に安定かつ自立した研究環境を提供**し、自主的・自立的な研究に専念できるようにしていくことが我が国の研究力の向上を図る上で極めて重要。

### 【統合イノベーション戦略2021（令和3年6月18日閣議決定） 抜粋】

- 若手研究者のポストの確保と、若手の育成・活躍促進を後押しし、持続可能な研究体制を構築する取組を促進する。

## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

- 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。

### 【事業の概要】

- ① 卓越研究員の受入れを希望する大学，研究開発法人，企業等からポストを募集し，一覧化して公開
- ② 若手研究者に対して卓越研究員事業の公募を実施
- ③ その後，卓越した研究者とポストを提示した研究機関が交渉  
その際，**若手研究者と研究機関をつなぐブリッジプロモーターによりマッチングを促進**
- ④ 申請者及び候補者（マッチングが成立していない者を含む）に対して，厳正な審査を行い、文部科学省が若手の卓越した研究者を卓越研究員として決定
- ⑤ 卓越研究員を受け入れた研究機関に対し，一定の期間，研究費等を支援  
※ 海外からの帰国者や、民間企業等を志望する者の特別枠を設け支援。

### 【事業スキーム】

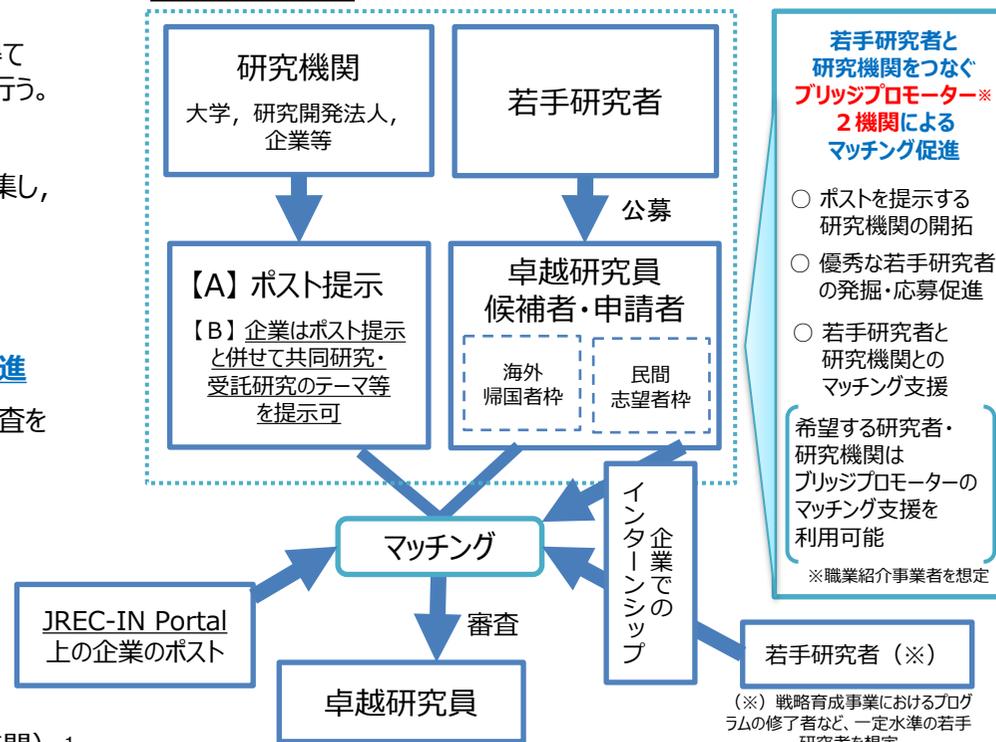
- ✓ 支援対象：国公立大学，国立研究開発法人，民間企業等
- ✓ 人数：170名程度（うち新規採用10名程度）
- ✓ 支援内容：【A】若手研究者の研究費 年間6百万円（上限）／人（2年間）<sup>1</sup>  
研究環境整備費 年間2～4百万円（上限）／人（5年間）

※ 1 人文・社会科学系は、400万円を上限

- 【B】産学連携活動費 年間最大10百万円（上限）／人（最長5年間）<sup>2</sup>

※ 2 クロスポイント制度や出向制度を活用した共同研究も想定。  
補助率1/2とし、企業負担額を上限。共同研究等の開始が2年目の場合、1年目は研究環境整備費のみ措置。

### 【事業イメージ】



若手研究者と  
研究機関をつなぐ  
ブリッジプロモーター※  
2機関による  
マッチング促進

- ポストを提示する研究機関の開拓
- 優秀な若手研究者の発掘・応募促進
- 若手研究者と研究機関とのマッチング支援

希望する研究者・研究機関はブリッジプロモーターのマッチング支援を利用可能

※職業紹介事業者を想定

【A】従前と同様，若手研究者の研究費と研究環境整備費を支援

【B】企業が卓越研究員を共同研究又は受託研究に従事させる場合は産学連携活動費の1/2を支援

※ 企業は【A】又は【B】を選択。

## 1. 公募期間及び申請件数

令和4年度卓越研究員事業について、令和4年4月27日(木)からポスト公募を開始し、同年12月12日(月)までに、大学や公的研究機関、民間企業などから42件(25機関)の提示にご協力いただき、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のウェブサイトを通じて公開しました。(別紙2参照)

申請者(若手研究者)については、令和2年度からの候補者資格継続者が105名でした。また、令和4年5月12日(木)より、申請を受け付け、同年6月16日(木)までの間、公募を行った結果、111名の新規申請者(研究者)から申請書の提出を受け付けました。

## 2. 選考方法及び決定件数

本事業に係る審査等業務を行う独立行政法人日本学術振興会において、有識者によって構成される卓越研究員選考委員会を設置し、本事業の審査要領に基づき審査を行い、同委員会の審査結果を踏まえ、令和4年10月25日(火)に文部科学省において、候補者資格継続者105名を含む153名の卓越研究員候補者を新たに決定しました。

同時に、新規申請者(研究者)とポストを提示した研究機関において当事者間交渉が行われ、令和4年8月31日までに各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た旨文部科学省に報告された卓越研究員候補者のうち、12名を補助金による支援の対象となる卓越研究員として決定しました。その後、補助金による支援の対象とならない卓越研究員を追加で3名決定し、計15名を令和4年度卓越研究員として決定しました。